

茅ヶ崎市観光振興ビジョンの振り返りと今後について

1. 経緯

茅ヶ崎市観光振興ビジョン（以下「本ビジョン」という。）は、地域経済の活性化を推進するため、本市における観光施策の取り組みにおいて、目指すべき観光振興の在り方を計画として平成 26 年に策定しました。令和 2 年度は、当初の計画期間の終了年度でありましたが、コロナ禍の影響で今後の観光振興の見通しが図れないことから、3 年間延長することとし、5 年度までの計画期間としました。

2. コロナ禍における観光の状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、誘客イベントの中止や外出自粛など、人流が大きく抑制され、社会経済に急激な変化が生じたことで、観光業は深刻な影響を受けました。本市においてもコロナ禍以前の令和元年と比較すると 4 年までは入込観光客数及び観光客消費額は減少し、5 年は新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行されたことにより、増加へと転じました。

<入込観光客数と観光客消費額の推移>

	令和元年	2 年	3 年	4 年	5 年
観光客数（人）	2,573,673	1,815,283	2,092,490	2,226,441	2,812,524
前年対比	114.8%	70.5%	115.3%	106.4%	126.3%
コロナ以前との対比 （令和元年）		70.5%	81.3%	86.5%	109.2%
観光客消費額 （千円）	4,575,183	3,623,421	3,605,388	4,484,383	6,379,426
前年対比	98.9%	79.2%	99.5%	124.4%	142.3%
コロナ以前との対比 （令和元年）		79.2%	78.8%	98.0%	139.4%

3. コロナ禍を契機とした観光の変化

コロナ禍では、社会経済活動のデジタル化の進展によりテレワークの普及が進んだことをはじめ、密を避けた個人・少人数旅行や近隣地域内における観光（マイクロツーリズム）、地域に根ざした歴史文化や日常のなかでライフスタイルを体験するような旅（ローカルツーリズム）や、キャンプ・グランピングなどのアウトドア活動への需要が高まり、コロナ禍を経て、観光のあり方が大きく変化しました。

本市ではコロナ禍に対応した観光施策として、感染防止のための「新しい生活様式」を前提とした取り組みに転換し、市内の観光資源をまちなか観光で再発見してもらう「茅ヶ崎ローカルツーリズム」に取り組みました。このことは、まちの持つ魅力的な観光資源にスポットを当て、再発見につなげるものであり、改めて本ビジョンが掲げる方向性と、観光振興の取り組みが一致していることを確認し、本市の目指す観光がより明確となりました。

4. アフターコロナにおける観光の対応

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたことにより人流が徐々に回復し、コロナ禍に実施したマイクロツーリズム等を継続しつつも、4大まつりをはじめとする様々なイベントが再開され、入込観光客数や消費額もコロナ前の水準を上回るようになりました。様々なイベントやマルシェが開催される中で、多くの運営主体から市に対して、その開催に向けた支援やバックアップが求められました。またコロナ禍、アフターコロナの経験では、取り巻く環境の変化や課題、観光ニーズやトレンドを把握することなど、スピード感も求められました。

これらを踏まえて、本市としてビジョンに基づく観光振興を推進するにあたっては、柔軟かつ的確な対応、スピード感をもった取り組みが重要となります。

以上の状況の中で本ビジョンに基づく取組について、別添「茅ヶ崎市観光振興ビジョンの振り返り」として、評価、総括を行いました。※別添資料参照

5. 観光ビジョンの今後について

コロナ禍によって人々の行動が抑制されながらも、日々様々な状況が変化する中で、令和5年度から多くのイベントがコロナ対策に配慮しながら安心して開催できる状況となりました。本ビジョンを延長した3年間で踏まえると、本市の観光の柱は、ローカルツーリズムによるまちなか観光とまちのにぎわいを創出するイベントやマルシェです。

本市の4大まつりや様々なイベントなどに来場される方は、市民を中心に近隣自治体や2～3時間移動できる範囲内の来訪者が多くっており、まちなか観光によるローカルツーリズムが本市の観光を推進しています。

自然環境や歴史・文化等を大切に捉え、時代のトレンドを意識している人や事業者が、観光ニーズやトレンドに対応し、タイムリーに仕掛けるとともに参加することで、イベントやマルシェにより、まちなかの回遊性が高まっています。行政としては、開催に向けた環境づくりをサポートする役割を担うことで、より多くのまちのにぎわい創出につながるようになります。

さらに、ローカルツーリズムは、まちなかの地域資源を知っていただくきっかけとなり、回遊性を向上させ、またイベントやマルシェの実施は、まちのにぎわいや活力の創出につながり、豊富な地域資源は、人々がまちなかを回遊する楽しみをより高めることになりました。このことから本ビジョンとして本市が目指すべきコンセプトである「100万人が1回だけ訪れるのではなく、1万人が100回訪れるまち」として、進むべき方向性が定着しはじめています。

今後は、本ビジョンの基本方針とコンセプトを活かし、人々が楽しみ、まちがにぎわうために、本市らしい普段とおりの気軽に楽しめるライフスタイルにふさわしい展開ができるよう令和6年度より、観光の進むべき考え方・方向性を示す基本的な方針「茅ヶ崎市観光振興ビジョン」として位置付けることといたします。

総合計画や実施計画等との整合を図りながら、本市が持つ観光特性やポテンシャルを踏まえ、関係団体等と連携し、観光ニーズやトレンドに合わせたにぎわいの創出に取り組み、本ビジョンのコンセプトの実現に向けて着実に推進してまいります。